

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：湘南医療大学

所 属：保健医療学部 リハビリテーション学科
理学療法学専攻

名 前：中尾 陽光

作成日：2026年5月1日作成

1. 教育の責任

私は下表のとおり、担当する科目は全学年および大学院に関わっている。本学では、とりわけ運動器系理学療法に関する知識面、技能面を指導する責任を有している。そのうえで、演習科目、実習科目を担当しており、理学療法士になるための必要な教育を行っている。さらに、自身の専門分野であるスポーツ理学療法および障がい者スポーツに関しては、「スポーツ理学療法学(選択科目)」と「障がい者スポーツ概論(自由科目)」を立ち上げている。「スポーツ理学療法学」では、実際にスポーツ選手などに指導することを想定し、まず学生自身が実践できることが重要であると考え、プログラムしたメニューを体験・実践することで講義を展開している。「障がい者スポーツ概論」では、日本パラスポーツ協会の認定を受け、「初級パラスポーツ指導員」資格の付与を行っている。講義では実習として、実際に障がい者施設で、障がい者と触れ合いながらスポーツを実践する実習を展開している。

委員活動では、学内で学生支援委員、専攻内で臨床実習・国家試験対策などの委員を務め、さらにおよび専攻内の実習 OSCE のとりまとめを行っている。学内ではフットサルサークルおよび運動指導研究会の顧問として活動している。

担当科目（大学院・専門科目）

科目名	領域	課程	必修/選択	年度
運動機能回復学特論	心身機能回復領域	修士課程	選択	2019年度～
運動機能回復学演習	心身機能回復領域	修士課程	選択	2019年度～

担当科目（専門科目・基礎理学療法学領域の科目）

科目名	学科/専攻	学年	必修/選択/自由	年度
理学療法学教養基礎	理学療法学専攻	1	必修	2020年度～
理学療法概論演習	理学療法学専攻	1	必修	2015年度～
理学療法研究法演習	理学療法学専攻	3	必修	2017年度～
理学療法卒業研究	理学療法学専攻	4	必修	2018年度～

担当科目（専門科目・理学療法評価学領域の科目）

検査測定学演習	理学療法学専攻	2	必修	2016年度～
運動器系検査測定学	理学療法学専攻	2	必修	2016年度～

担当科目（専門科目・理学療法治療学領域の科目）

運動療法学基礎演習	理学療法学専攻	2	必修	2019年度～
運動器系理学療法学演習	理学療法学専攻	3	必修	2020年度～
理学療法学特論Ⅰ	理学療法学専攻	3	必修	2017年度～
理学療法学特論Ⅱ	理学療法学専攻	4	必修	2018年度～

担当科目（専門科目・専門共通科目）

科目名	学科/専攻	学年	必修/選択 /自由	年度
スポーツ理学療法学	リハ学科	3	選択	2017年度～

担当科目（専門科目・臨床実習科目）

見学実習	理学療法学専攻	1	必修	2015年度～
評価学実習	理学療法学専攻	3	必修	2017年度～
地域リハビリテーション実習	理学療法学専攻	3	必修	2022年度～
総合臨床実習Ⅰ	理学療法学専攻	4	必修	2018年度～
総合臨床実習Ⅱ	理学療法学専攻	4	必修	2018年度～

担当科目（総合教育科目・人間とコミュニケーション領域の科目）

チーム医療	リハ学科・看護学科	4	必修	2018年度～
-------	-----------	---	----	---------

担当科目（自由科目）

障がい者スポーツ概論	リハ学科	2～3	自由	2023年度～
------------	------	-----	----	---------

過去の担当科目（湘南医療大学での科目）

科目名		該当学年	必修・選択	年度
運動学演習	理学療法学専攻	2	必修	2016～2021年度
クリニカル・リハビリテーション論	理学療法学専攻	3	必修	2017～2022年度

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私は理学療法士を養成する大学の教員として、3つのことを大切にして教育を行っている。

一つ目は、理学療法士となるための学修の重要性を理解してもらうことである。学生には、自身の学修不足が、将来自身が担当する患者様に不利益をもたらす可能性があることを伝えている。優しさだけでは患者様を治療していくことはできない。医療を目指す学生として、常に患者様のために一生懸命学修し続けなければならないことを伝えている。

二つ目は、学生が将来理学療法士となった際に、どのような患者様にも安心して任せられる理学療法士になるように育成することである。それは知識・技術面はもちろんであるが、患者様に対して敬意と優しさをもって接することができ、家族も含めて適切な対応ができるようになってもらうことである。そのためには、患者様や家族としっかり向き合い、問題を解決できるように、常に自ら考えて行動することが大切であると指導している。

三つ目は、本学を卒業する際、本専攻で学んだことを誇りに思えるようにすることである。

理学療法士の養成校は数多くあるが、本学を選んで入学してくれた学生には、その思いに応え、一人一人と向き合いたいと考えている。時には厳しく指導するが、それが学生の成長のためであると理解してもらい、学修面だけでなく、理学療法士として必要なマインドをしっかりと身につけて卒業してもらいたいと考えている。

2) 理念をもつに至った背景

私自身が病院で理学療法士として勤務していた際、自分が担当しているよりも、他のベテラン理学療法士が担当していた方が、患者様はより良くなっていたのではないかと悩み、苦しんだ経験がある。その経験から、自身の学修不足を強く悔やみ、それが患者様に影響を及ぼす可能性があるかと実感した。このような経験を学生にさせないために、自身の体験を伝えるようにしている。私自身の家族でも安心して任せられるような、知識・技術、そして患者様に真摯に向き合えるマインドをもった理学療法士を育成したいと強く考えるようになった。

3. 教育の方法・戦略

私の教育方針としては、学生が理学療法士の資格を取得し臨床現場に出た際に、今学んでいることがどのように活かされるかという視点を重視することである。

【講義】

講義では、覚えなければならないことが多いが、ただ暗記するだけでは定着しにくい。そのため、現在学んでいる知識がどのような場面で活かされるかを伝え、状況を具体的にイメージできるよう工夫している。また、その知識によって教員自身がどのように課題を解決できたかなど、臨床での具体的な経験を示すことで、内容を身近に捉えられるようにしている。さらに、学生自身がどのように活用できるのかを自分の立場に置き換えて考える時間を大切にしている。

【演習・実技】

講義で学んだことを実技でどのように活用するかという点を重要な視点として指導している。解剖学・生理学、運動学で学んだ基礎知識を、実技の中でどのように考え、実践していくかを学生自身が考えられるように促している。

また、臨床医学で学んだ疾患や病態をイメージしながら、どのように実技を展開していくべきかを、臨床経験を交えて指導している。さらに、これらの学びを臨床実習でどのように活用するのか、どのような点に注意すべきかを常に意識しながら授業を展開している。演習・実技では、小さな成功体験を積み重ねられるよう工夫している。この成功体験により理学療法の面白さや楽しさを実感し、さらなる学びへの意欲や理学療法の奥深さの理解につながると考えている。

【自己研鑽】

私の教育では教員自身の経験が重要であると考えている。そのため、現在も臨床現場に継続的に関わり、経験を積み重ねている。特にスポーツ理学療法を専門としているため、スポーツ大会のメディカルスタッフとしての活動にも積極的に参加し、それらの経験を講義に還元す

るよう努めている。

このような方針で教育を展開している。

4. 学習成果

・スポーツ理学療法学(選択科目):科目履修学生

➤2019年度 36名、2020年度 42名、2021年度 38名、2022年度 30名、
2023年度 32名、2024年度 32名、2025年度 31名

⇒選択科目であるが、大半の学生が科目を履修している。

・障がい者スポーツ概論(自由科目):科目履修学生

➤2023年度 42名、2024年度 28名、2025年度 32名、2026年度 37名

⇒卒業単位に関わらない自由科目であるが、多くの学生の科目履修がある。

・スポーツ医学検定 学習サポート

(一社)日本スポーツ医学検定機構主催

【スポーツ医学検定 1級合格者】

➤2025年度 2名合格

➤2024年度 3名合格

➤2023年度 2名合格

➤2022年度 1名合格

・授業評価アンケート

➤実技中心の授業であるが、その意義・活用方法を的確に示してくれているので
非常に理解しやすい。

➤臨床での実体験を通した授業展開であるため、とても興味深い授業である。

5. 改善のための努力

教育方法の改善のために、以下のような取り組みを行っている。

・講義終了後、成績には反映しない形で、授業の良かった点や改善点、分かりにくかった点について自由記述で記載してもらっている。

・各期に実施される授業評価アンケートにおいて評価が低かった項目については、次年度に具体的な改善策を講じ、必ず改善を行うようにしている。また、要望があった点についても必要に応じて対応している。

6. 今後の目標

【短期目標】

理学療法学専攻の学生には国家試験合格という明確な目標があるが、国家試験対策に偏

りがちである。そのため、国家試験は重要な通過点であるという認識を持たせ、将来の臨床現場で活かせる知識・技術や経験の修得を重視した教育を行っていききたい。そのための授業システムや教材を、3 年以内に構築していききたい。

【長期目標】

理学療法士の進路は病院やクリニックが中心であるが、自身の専門分野を活かし、職域の拡大に貢献したい。最終的には、学校保健やスポーツ領域において理学療法士が定着するような社会の実現を目指して取り組んでいきたい。